

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

## 6月号

平成30年(2018)6月 1日



「運動会」ありがとうございました

校長 市川 幸男

好天に恵まれた5月26日(土)、千秀小学校大運動会を開催することができました。当日、多くのご来賓の皆様にご来校いただくとともに、会場いっぱいの保護者、地域の皆様の温かい大声援を受けて、子どもたちは元気に、そして伸び伸びと競技、演技をすることができました。心より御礼を申し上げます。一日の競技を終えた子ども達の顔は、一つの大きなことをやり遂げたというように本当に輝いていました。私はそんな子ども達の頑張る姿を見ると、胸がいっぱいになって仕方ありませんでした。当然のことながら競技には勝ち負けがあります。一位になる組があれば、惜しくも敗れてしまう組もあります。でも、力いっぱい競技する姿に勝ち負けは関係がありません。本校児童の一人ひとりが、今日までの練習を頑張っただけで積み重ね、互いに協力してより強い力、より巧みな演技を表現してくれたことが、この運動会の一番の宝物だと思います。「ありがとう児童のみなさん」と声をかけたいと思います。

さて、そんな運動会の中、今年度も、本校を巣立った多くの中学生たちが、後輩の運動会のためにボランティアとして、係活動を手伝ってくれました。この中学生ボランティア制度の導入以前は、兄弟関係が本校に在籍する関係もあつたか、毎年多くの卒業生が、運動会に来校し、ミニ同窓会のような様相でした。それでも一日過ごしていると、することも無くなり、手もち不沙汰に過ごしている状況が見られました。それならば運動会運営のお手伝いをしていただきましょう、ということから、子どもたちの進学する飯島・大正・南戸塚中学の三校に、ご理解をいただき、ポスター掲示などで、中学生に呼びかけを始めたのがこの制度です。以来4年間、年々参加してくれる生徒の皆さんが増え、職員数の少ない本校にとって、運動会の多様な場面で支えてくれる大きな存在となりました。今年も総勢29名の中学生が参じてくれて、演技、競技の道具出しや会場の整理など一生懸命取り組んでくれました。その中の一人に「どうしてボランティアしてくれるの?」と聞いてみると、「私たちが6年生の時、中学生が手伝ってくれ、助かったのと同時に、気さくに声をかけられ励まされたことを覚えています。今度は自分が、今いる子どもたちに何かしてあげられたらと思い来ました。」と少しはにかみながらも胸を張って答えてくれました。そして、踵を返し紅白玉の片づけをしている仲間のもとに走っていき、一緒に競技後の片づけに汗を流してくれました。その考えや働く姿を見て、私はこの取り組みが単に、お手伝いの場ということにとどまらず、自分の育ってきた母校を愛し、少しでも学校や後輩のために役立ちたいという子どもたちの心の育成にもつながっているのだなあと、改めて感じ入りました。

このような学校に対する支援は、ご紹介した中学生ボランティアだけに限りません。受付や接待をしていただきましたPTA役員の皆様。学校外周のパトロールをしてくださいました保護者ボランティアの皆様、そして何よりも、閉会式後の片づけを最後までお手伝いいただきました多くの保護者の皆様。運動会ひとつあげても、こんなにも多くの方に支えられています。

その他にも、読み聞かせの「本の木」さんや「ちくちく隊」、環境整備をしてくださる方々など、日常的な支援の状況を考えますと、ただただ頭が下がるばかりです。こういった地域や保護者の皆様の思いに応えるためにも、学校は一層、その使命を自覚し「千に秀でる子の育成」に努めていかななくてはならないと意を強くしました。